



➤ **知識と臨床を繋ぐ症例検討**

症例検討会④

～症例から明日に繋がるヒントを探す～

- 1. 分析チャートの記入**
 - 2. 問題点の仮説の立て方**
 - 3. 目標設定とは**
 - 4. 評価とアプローチの視点**
-

**講師：脳外臨床研究会
作業療法士 山本秀一郎**



この患者様に何をしますか？

① 目標設定

② 行動設定

③ 環境設定

まず、何を考えるのか？

現在地の確認

- ① 座位 ② 食事 ③ 整容 ④ 立ち上がり ⑤ 立位 ⑥ 移乗 ⑦ 歩行 ⑧ トイレ自立 ⑨ 屋外歩行



自宅退院

座位

- ① 座位 ② 食事 ③ 整容



立位

- ④ 立ち上がり ⑤ 立位 ⑥ 移乗



移動

- ⑦ 歩行 ⑧ トイレ自立 ⑨ 屋外歩行



現在地の確認

作業療法士

理学療法士

臥位

ヘッドアップ

寝返り

起き上がり

上肢挙上

<体幹>

座位

端座位

車椅子駆動

立ち上がり

<股関節>

<片手動作>

食事 整容 更衣 清拭

→

<両手動作>

食事 整容 更衣 清拭

物品操作

立位

ステップ

移乗

トイレ動作

<膝関節>

歩行

ペットボトル

トイレ移動

洗濯物

入浴

ハサミ

段差昇降

書字

屋外歩行

調理

洗濯

化粧

買い物

アイロン

パソコン

パソコン

<足関節>

*山本の独断と偏見です



この患者様に何をしますか？

① 目標設定

片手動作→両手動作

② 行動設定

③ 環境設定

両手動作の分析

両手動作必要要素

①左右の分離

②到達

③操作

症状：①運動麻痺 ②弛緩 ③痙性 ④感覚障害

→連合反応の有無 運動プログラム

→リーチ（方向・距離・傾き）

→ピンチ（側副・対立・握り）

両手動作分析

症状：①運動麻痺 ②弛緩
③痙性 ④感覚障害

①左右の分離→連合反応ー

②到達→ 問題+

③操作→ 問題+





動作分析

リーチ（肘屈曲からのリーチ）

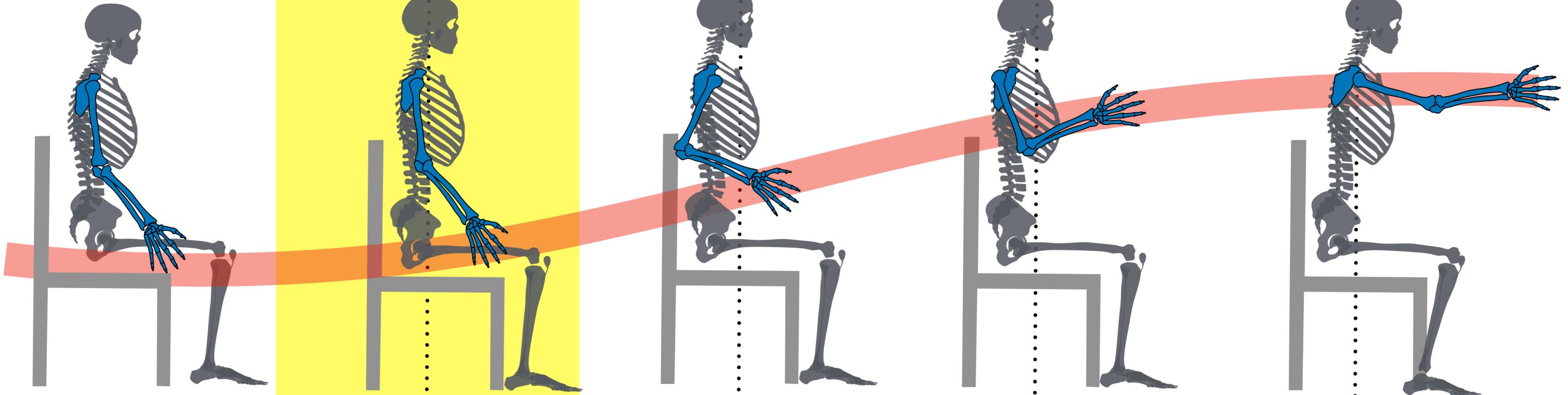
認知相

屈曲相

移行相

伸展相

安定相



上腕二頭筋

上腕二頭筋

短母指外転筋

短母指外転筋

足底筋群

三角筋

三角筋

体幹

上腕三頭筋

上腕三頭筋

腕橈骨筋

腕橈骨筋

肩甲骨周囲筋

総指伸筋

総指伸筋

総指伸筋

背側骨幹筋

背側骨幹筋

浅指屈筋

動作分析

リーチ（肘屈曲からのリーチ）

屈曲相

手指の伸展・前腕中間位・肘屈曲

肘の屈曲→肩の伸展・外旋・外転・前腕の回外代償

移行相

肘屈曲をキープした状態から伸展への切り替え

屈曲から伸展→キープ× 肩の内旋・肘の伸展が発現

伸展相

肩関節の屈曲と肘の伸展の協調運動

肩の屈曲・肘の伸展をサポート 肩内転・内旋代償+



リハビリの考え方

リハビリとは①目標：身体・精神・社会的に再び適した状態
②方法：問題に対して患者自身が変革する ③制限：限られた時間内に

急性期

回復期

維持・生活期

救命
リスク管理

残存機能の回復
損傷部位の理解と代償
学習

学習

運動学習

回復させたい運動あるいは機能についてはある程度繰り返しが必要であり、繰り返すことにより使用依存性脳可塑性のメカニズムによって学習成果が脳に定着すると考えられる。繰り返しが必須という意味では、内部モデルを構築するための教師あり学習と同様である。

第1は、学習を伴う課題でなければ繰り返しても意味がないということである。もともと学習が必要ない単純動作をいくら繰り返しても可塑性には影響しないと考えている。

第2は、可塑性を誘導させる方向についての考察である。望ましい運動を繰り返せば、その方向に可塑性が誘導され、逆に、望ましくない運動を繰り返せば望ましくない方向に可塑性が誘導されてしまう。あるいは、望ましい運動をまったく行わなければ、そのような運動を実現する脳部位は退縮してしまうと考えられる。

リハビリの考え方

リハビリとは①目標：身体・精神・社会的に再び適した状態
②方法：問題に対して患者自身に変革する ③制限：限られた時間内に

急性期

回復期

維持・生活期

救命
リスク管理

残存機能の回復
損傷部位の理解と代償
学習

学習

課題特性があり
今後必要な運動の
反復が必要



この患者様に何をしますか？

症状：①運動麻痺 ②弛緩
③痙性 ④感覚障害

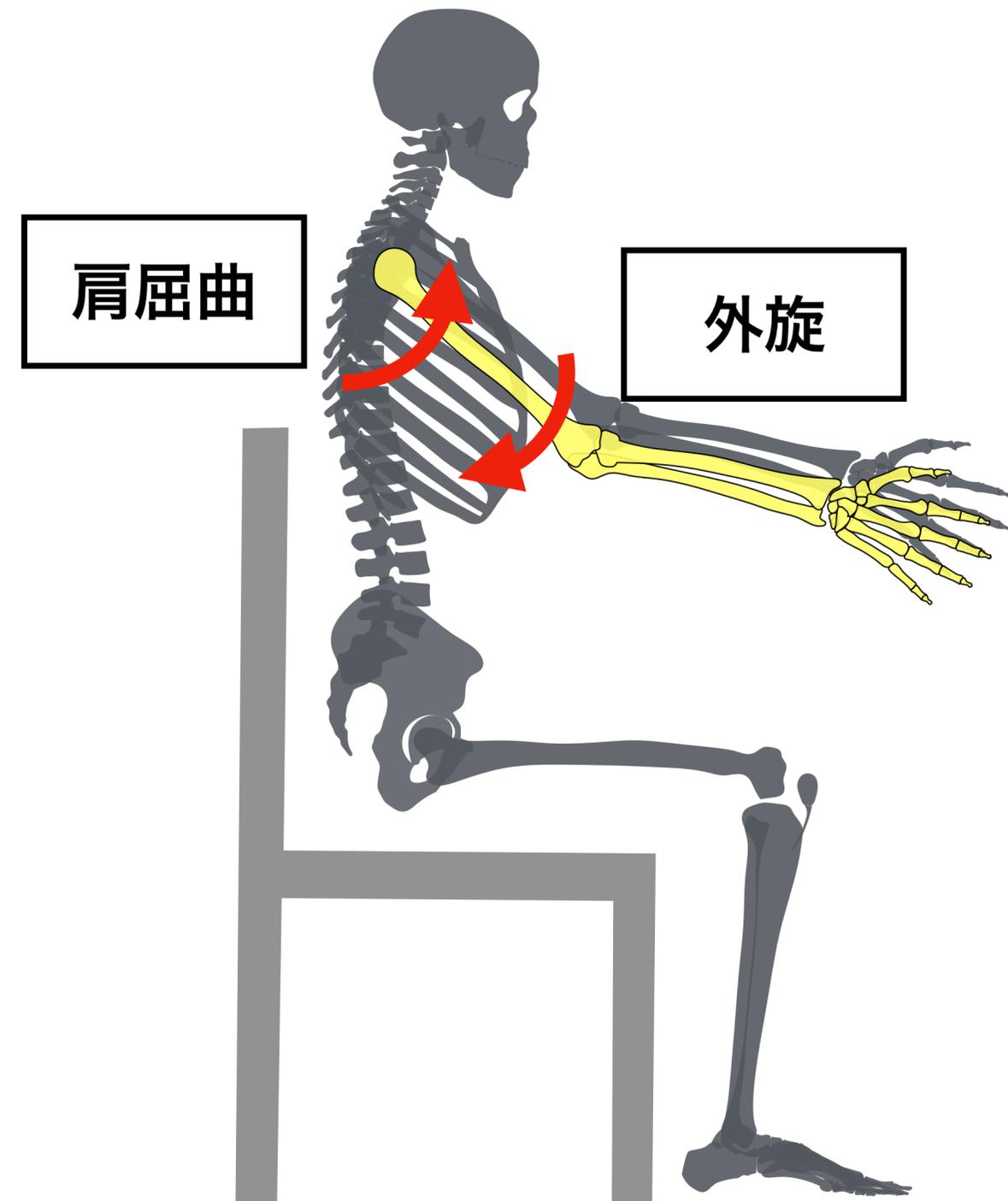
① 目標設定

片手動作→両手動作

② 行動設定

③ 環境設定

行動課題：リーチと把持



動作分析

リーチ（肘屈曲からのリーチ）

屈曲相

手指の伸展・前腕中間位・肘屈曲

肘の屈曲→肩の伸展・外旋・外転・前腕の回外代償

移行相

肘屈曲をキープした状態から伸展への切り替え

屈曲から伸展→キープ× **肩の内旋・肘の伸展が発現**



この患者様に何をしますか？

症状：①運動麻痺 ②弛緩
③痙性 ④感覚障害

肩関節屈曲

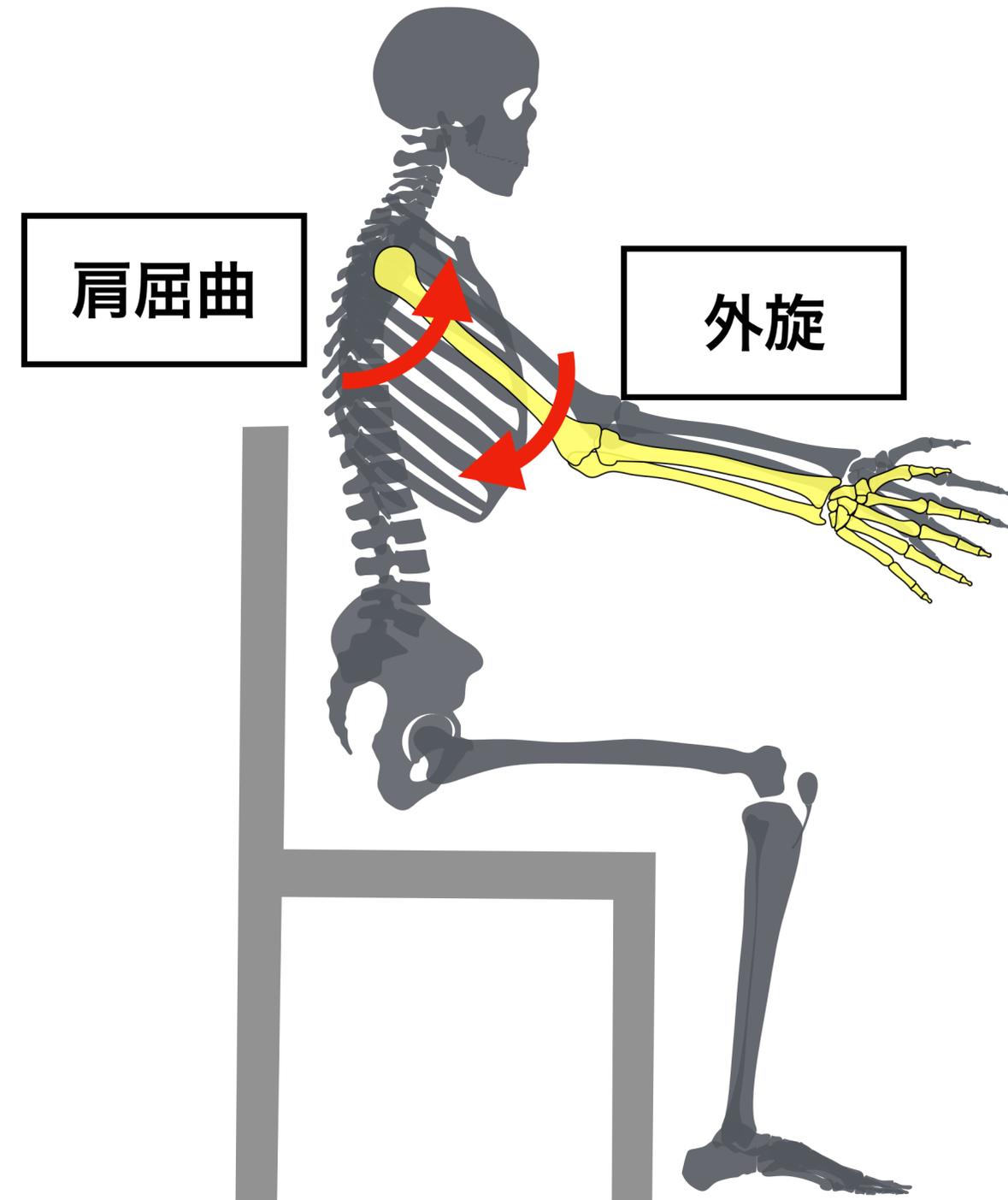
サポートありで+

肩関節外旋

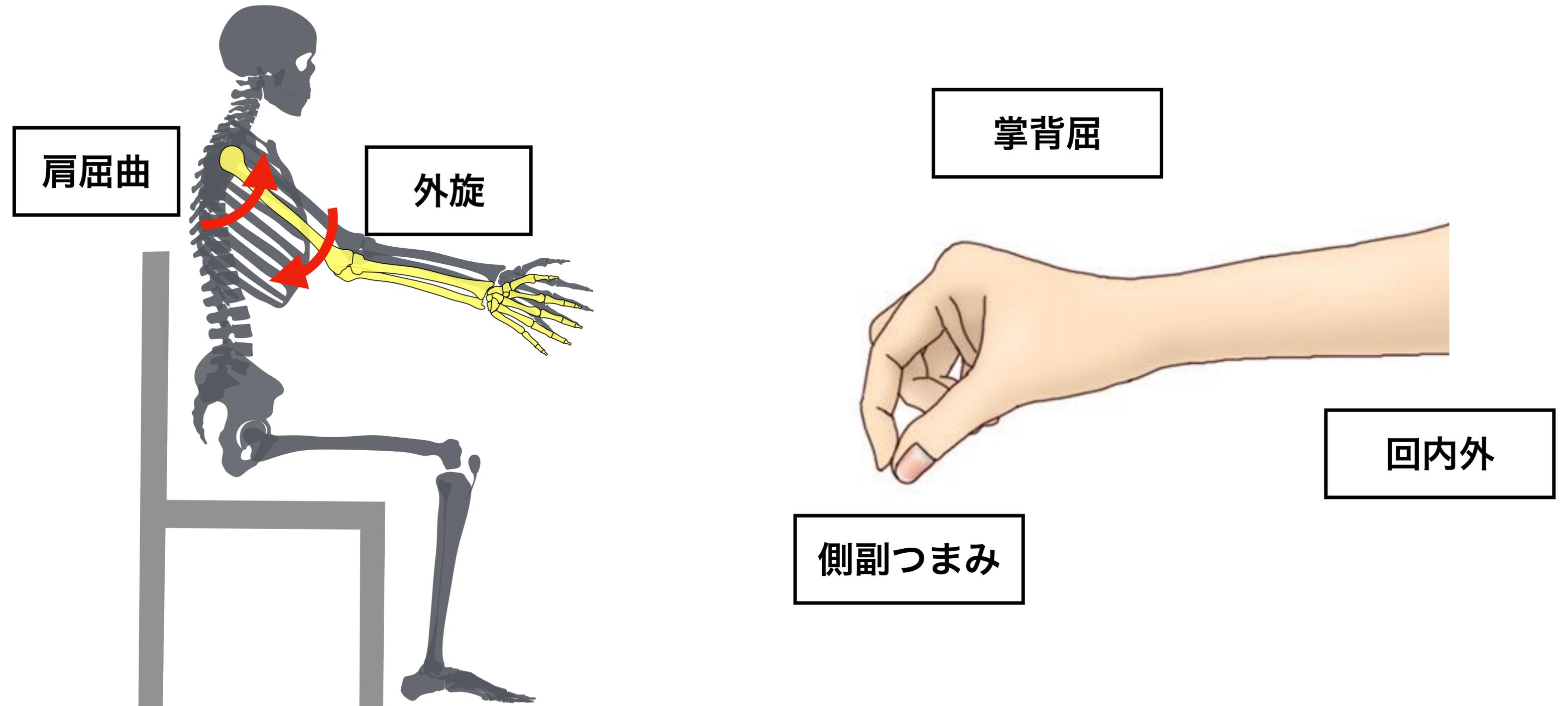
外旋一



行動課題：リーチと把持



行動課題：リーチと把持





この患者様に何をしますか？

症状：①運動麻痺 ②弛緩
③痙性 ④感覚障害

肩関節屈曲

サポートありで+

肩関節外旋

外旋一



この患者様に何をしますか？

症状：①運動麻痺 ②弛緩
③痙性 ④感覚障害

肩関節屈曲

サポートありで+

肩関節外旋

外旋-

側副つまみ

出力弱いが+

回内外

回内位+ 回外-

掌背屈

掌屈+ 背屈+



この患者様に何をしますか？

① 目標設定

片手動作→両手動作

② 行動設定

③ 環境設定

どんな環境で何をさせるか？

どんな環境で 何をさせるか？

症状：①運動麻痺 ②弛緩
③痙性 ④感覚障害

- 目標：片手動作から両手動作へ
運動麻痺・痙性→随意運動練習
肩の外旋
前腕の回外運動練習
- 行動：食事動作場面での麻痺側の利用
- 環境：箸ぞうくんの利用
非麻痺側でのリーチ

